

特集 東京2020大会 ～サッカー・バスケットボール編～

特集① オリンピックを体感しよう！

さいたま市 スポーツ文化局 オリンピック・パラリンピック部
主幹 石井出 宏嘉さん、主幹 小林 亮さん

2020年、さいたま市ではサッカー、バスケットボールの2つの競技が、それぞれ「埼玉スタジアム2002」(以下、「埼玉スタジアム」)と「さいたまスーパーアリーナ」(以下、「スーパーアリーナ」)で行われます。埼玉スタジアムはサッカー競技を開催する全国7会場のうちの1つで、8日間11試合が行われ、スーパーアリーナでは15日間でバスケットボール競技の全52試合が行われます。両会場には、観戦客、メディア、大会関係者を含め約160万人が訪れる予想されています。



埼玉スタジアムの最寄駅は浦和美園駅、スーパーアリーナの最寄駅はさいたま新都心駅となります。最寄駅から各会場までのルートはラストマイルと呼ばれ、さいたま市に競技観戦に来る方をお迎えする玄関口となります。これらラストマイルや会場周辺を、大会のデザイン等を用いて装飾し、祝祭感を高めて大会本番を迎えます。

ラストマイルで観戦客が一番初めに出会う存在がボランティアです。ボランティアの方には、国内外から訪れる方を「さいたま市の顔」として出迎え、ご自身も一緒に楽しみながら、訪れた方がわくわくするような祝祭感を作り上げてほしいと考えています。そして東京2020大会時にボランティアに従事し満足感や達成感を得てもらうことで、ボランティアの方がオリンピック後も地域活動に携わり、さいたま市に文化として根付いていくことを期待しています。

また、観戦客に快適に会場まで向かっていただけるよう、真夏の暑さ対策として、雪を使ったおもてなしを実施します。さいたま市は、新幹線6路線でつながる東日本地域との広域連携を推進していますが、このおもてなしは、連携都市のひとつである新潟県の南魚沼市と共同で実施するものです。昨年の夏に、雪で冷やしたテントやスノーパックの配布などの実証実験を2会場周辺で行ったところ、涼しいとたいへん好評であったことから、本大会期間中にも実施する予定です。

一方、さいたま市はオランダ空手道連盟と事前キヤ



さいたま市PRキャラクター つなが竜ヌウ

ンプに関する協定を締結し、ホストタウンとしても登録を受けています。昨年もオランダの空手選手が来日し、事前トレーニングを行いました。その際には、さいたま市内の空手部の高校生との合同練習を行い、競技を通じ交流を図りました。また、市内で実施した東京2020オリンピック大会の1年前イベントでも、選手への応援メッセージの募集やオランダの国旗を模した三色(赤、白、青)の千羽鶴を折ってもらうワークショップを行うなど、オランダに興味を持ってもらい、身近に感じてもらえるように企画し、多くの方に参加してもらいました。

また、外国から訪れる方に対応するため、多言語の観光マップを配布するとともに、大会期間中は市内を回遊するバスを臨時運行し、観戦客の皆さまを市内の観光スポットへ誘導する予定です。さいたま市には、大宮盆栽美術館、武藏一宮氷川神社、鉄道博物館、造幣さいたま博物館などの観光スポットがあり、さらに2月22日には日本でも有数の人形の産地であるさいたま市岩槻区に日本初の公立の人形博物館「岩槻人形博物館」がオープンしています。海外でも人気の高い日本人形を観ることができるために、国内外から多くの方に足を運んでいただきたいと思っています。この回遊バスはさいたま新都心駅を起点とした複数のルートを設定しますので、ぜひ試合観戦とあわせて、市内の観光スポット巡りを楽しんでいただきたいと考えています。埼玉県に住んでいる方でも、これらスポットに行ったことがない方も多いと思います。この機会に、ぜひ、さいたま市の良さを再発見してもらえばと願っています。



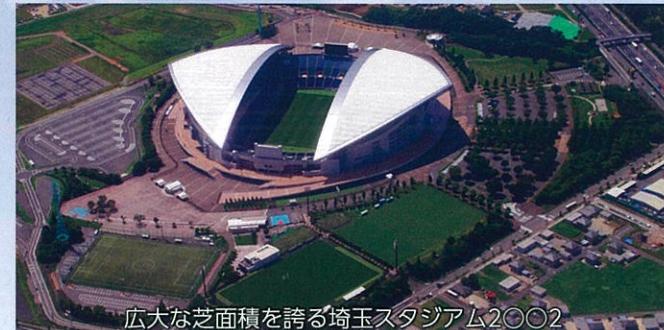
スノーパック



1年前イベントでの折り鶴ワークショップ

特集② 日本一のピッチが最高のパフォーマンスを支える

公益財団法人 埼玉県公園緑地協会 埼玉スタジアム2002 公園管理事務所
ヘッドグラウンドマン 輪島 正隆さん、管理運営課 主任 根本 泰行さん、倉持 由美子さん



広大な芝面積を誇る埼玉スタジアム2002

東京2020オリンピック大会のサッカー会場の1つである埼玉スタジアム2002は2002年のFIFAワールドカップ日韓大会の国内開催会場の一つとして、2001年に完成しました。その後、数々の国際試合、国内のJリーグ、全国高校サッカー選手権などが開催されています。現在は、浦和レッズのホームスタジアムでもあり、埼玉県、そしてサッカーファンの間では馴染みのあるスタジアムです。

サッカー専用スタジアムとしては日本最大で、天然芝ピッチのクオリティの高さ、63,700席ある座席からの見やすさなどは世界最高水準です。ピッチまでもっとも近い場所で約14メートルというのも大きな特徴の一つで、大歓声の中でも監督や選手の声が聞こえるくらいの近さです。

埼玉スタジアムでは、オリンピック500日前イベントとして、2019年3月にスタジアムをオリンピックカラー4色(青、黄、緑、赤)でライトアップしました。これは、全国の象徴的な建築物を一斉にライトアップしたもので、県内ではさいたまスーパーアリーナも同時にライトアップされ、大会開催に向けての気運醸成を図りました。まだまだスタジアムがオリンピックの開催会場ということを知らない方が多くいらっしゃいます。普段は入れないスタジアムの裏側を案内する人気のスタジアムツアーでは、最後に県内のオリンピック開催競技や会場についてのパンフレットなどを配布し、周知を図っています。

レッズファンなどには勝手知ったるスタジアムですが、オリンピックでは初めての方や外国からの観戦客も多いと予想されます。それにあわせ、ピクトグラムや英語の表記を準備し、トイレの洋式化工事も進めています。Wi-Fi工事も実施しており、オリンピック開催までには環境が整う予定です。

また、ハイスピードカメラに対応するため、メインピッチの照明のLED化により、照度を引き上げます。オリンピックの試合ではスロー映像の鮮明さにも、ぜひ注目してください。

北半球に位置するスタジアムは南北軸に建てられることが多く、東西どちらかにあるメインスタンドから見て、シンメトリーに芝が刈られています。芝の刈込みでピッチをストライプに仕上げるのですが、その際に芝刈り機の轍で芝を傷めないように管理することが求められます。そのため、埼玉スタジアムでは、ゴルフ場などで使用する小型の芝刈り機を使用しています。埼玉スタジアムにはメインスタジアムに加え、第2・3グラウンド、周辺の芝の広場があり、年間を通して、広大な芝地の管理を行っています。そのため、6人の芝管理スタッフが、密度の濃いメンテナンスを行っています。

ピッチの芝は3系統8~9品種が植えられており、スタジ

アムができた20年前に比べ、芝の品種改良も進んでいます。これらの品種はそれぞれが様々な特性を持ち、スタジアムの環境にあわせたものを植えています。また、第2グラウンド横にあるナーサリー(養生畑)でメインスタジアムと同じ芝を育てることで、芝がはげたり、消耗した箇所にはスポット的に移植し対応しています。また、ピッチ下に配置されている地温コントロールシステムによって年間通じて温度管理を行い、1年中変わらない芝を維持しています。芝の管理は芝刈り、播種、肥料散布などの作業に加え、日々の生育状況を見ながらの管理が必要です。芝は植物であり、生き物です。365日欠かさず芝の状況、気温、地温、体温などを見ることで、小さな変化も見逃さず、芝の病気も初期の段階で発見することができ、ピッチのクオリティの維持につながっています。



500日前イベントでオリンピックカラーに
ライトアップされたスタジアム

オリンピックが開催されるのは7月下旬から8月上旬です。一年で最も暑い時期にあたり、埼玉スタジアムで採用している寒冷地に適した品種にとっては、厳しい時期です。さらに、ワールドカップ期間中は4試合の開催でしたが、オリンピック期間中は8日間で11試合が行われます。そこで、ナーサリー以外にもメインスタジアムと同じ芝を使用している第2グラウンドも期間中は養生用畑として維持し、補修用の芝を確保します。オリンピック期間中の芝のリスクヘッジは万全です。

ヘッドグラウンドマンの輪島さんは、2001年3月に行つた芝の播種から埼玉スタジアムの芝と向き合い、日韓ワールドカップや数々の試合を経験して今年のオリンピックで定年を迎えます。これまで20年に亘り、試行錯誤しながら芝を管理し、様々な育成・管理システムを構築してきました。その集大成として、オリンピックの大舞台で最高のピッチを準備しています。世界のトップ選手たちがケガなく、素晴らしいパフォーマンスができることが一番です。

トップ選手達の最高のプレーとあわせて、ピッチにもぜひ注目してください!また、オリンピックを機にサッカーに興味を持って、実際にスタジアムでサッカーを観戦してみたいという人が増えることを願っています。



メインピッチの芝刈り作業